題名はＭＳゴシック14ポイント

―副題があれば同12ポイント、無ければ行ごと削除―

研究 太郎（けんきゅう・たろう）

1. 見出しはＭＳゴシック

1.1. 見出しの‘한글’はDotum

ここは本文[[1]](#footnote-1))である。原稿はこのファイルを書き換える形で作成する。本文は12ポイントのＭＳ明朝で書かれる。ゴシックを用いる場合はＭＳゴシックを用いる[[2]](#footnote-2))。英数字のフォントは、通常は自動でCenturyに切り替わる。

ハングルのフォントはBatang及びDotumを用いる。古ハングルはNew Batangを用いる。（新式コードの古ハングルでNew Batangが指定できない場合は、Batangに類似するフォントを用いる。）

1.2. 見出し

上のように、見出しの直前には１行空白行を入れる（研究太郎1983）。図表は原則的に以下のように入れる。表は以下の様になり、

【表1】○○○○○の表

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

図の場合は、以下のようになる。図表番号は【 】で囲み、中の数字は半角である。

**図式やグラフ**

【図1】○○○○○の図

次は例文の示し方の例である。様々な場合があり得るが、一例として参考にされたい。原則的に朝鮮語の例文には和訳を付す。

(1) 작은 고추가 더 맵다. (小さな唐辛子がより辛い。)

(2) 가는 말이 고와야 오는 말이 곱다. (行く言葉が美しければこそ、来る言葉も美しい。)

(3) a. 하 우콰 하 아래 나 尊호라 <月印釋譜2:38b>
天の上と天と下、ただ我のみ尊し。

 b. 아 거슬 아노라 고 아디 몯 거슬 아디 몯노라 홈이 이 알옴이니라 <論語諺解1:15a>
知っている事を知っているとし、知らない事を知らないとする事が、知る事なのである。

また以上の例文のように、例文間の改行の有無も、著者の意図にしたがって様々な場合が有り得る。

6. おわりに

ワードの「相互参照」機能は編集作業の大きな障碍になるので使用しない。もし使用した場合は、提出前に必ず相互参照を解除し文字列に変換する。Windowsの場合は

 1. CTRL+Aキーで全選択する

 2. CTRL+SHIFT+F9キーを押す

の手順で解除できる。以上の本ファイルの書式に従わない原稿は受け付けない場合がある。ここは本文の末尾である。

参考文献

研究太郎(1992)「朝鮮語の研究について」，『朝鮮語研究０』東京：研究堂

김연구(2003) ‘한국어 연구에 대하여’，“한국어 연구”，서울：연구출판사

Kim, Yeongu(1994) “Korean Study”，Tokyo : Korean Study Press.

【要旨】

題名はＭＳゴシック14ポイント

―副題があれば同12ポイント、無ければ行ごと削除―

研究 太郎

ここは要旨本文である。本論と同じでＭＳ明朝、ハングルならBatangを用いる。分量はだいたい１ページに収まる程度を一応の目安とする。

【キーワード】五個程度，だいたいの目安，全角カンマ区切り，空白無し，本文と同様のフォント

1. ) 脚注はこのようにする。脚注本文のフォントはＭＳ明朝の10ポイントであり、脚注番号のフォントはCenturyである。脚注番号の「上付き」は解除してあり、番号の右には半角スペースが入っている。脚注本文は１字「ぶら下げ」に設定されている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. ) 脚注はこのように本文の句読点の前に入れることを原則とするが、例えば「段落全体にかかる」という意図で句読点の後につけたい場合等はこの限りではない。 [↑](#footnote-ref-2)